

謹啓 春暖の候いよいよご清栄にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

皆様方には郵政民営化に反対し、国民新党を立ち上げて以来六年半に亘りお支えいただきまして誠に有り難う御座います。

さて、既に報道などご承知のことと存じますが、この度国民新党を離党致しました。

国民に約束した公約を反故にして消費増税に向けて突き進む野田政権に協力することは断じて出来ません。

我々が郵政の立て直しを目指すと共に結党以来貫いてきたのは小泉改革で見失った弱者への配慮であり、それに反する閣議決定に対し党内で意見が対立した結果、代表としての政権離脱の意志決定を行使出来なかったのは偏に私の不徳の致すところであります。

これ以上の混乱を招くことは黨員及び国民新党を支持し応援して下さる皆様、又後援会の反対にも拘わらず国民新党立党を決断された綿貫民輔前代表を始め民主党を飛び出して参加して下さった故田村秀明先生に対しても申し訳ないとの思いから私が自ら離党することに致しました。

結党の緒である郵政改革は私が郵政大臣として提出した法案を引つ込め、名誉も名も捨てる覚悟で公明党に託した結果、議員立法で今国会に於いて成立し、大満足とはいかないまでも一定の区切りをつけることが出来ました。

我が国の基盤を支えるのに不可欠ともいうべき郵政事業を齊藤次郎社長の下に誇りと使命感を持ち、社員一丸となって事業の立て直しを図っていくと信じており、今後行く末を注視して参るつもりです。

しかし政治を志して三十数年、現在の日本は当時よりも悪くなる一方で、正に危機的状況であります。

このまま我が国が後退していく様を放置しては、何のために政治家になったのかわかりません。

この危機から脱し、国を立て直す政治を實行するためには内乱に拘わっている時間は無いと存じ、離党にあたり事後報告となりましたことをここにお詫び申し上げますと同時に何卒ご理解賜りたくお願い申し上げます。

今後は現在おきております地方のうねりを背景に中央集権、官僚支配の政治を打破しオールジャパンの政治を實行出来る仕組みを作るという新たな目標に向かって踏み出し、次の選挙では必ずや政治を一新する覚悟です。

引き続きご支援を賜りたくお願い申し上げます。

敬具

平成二十四年四月吉日

私闘越え 滅びゆくかよ 秋津州 浮き世成りとして 一矢報いぬ

